



「コノハナロードのそもそも話」

1本の電話から始まった奇跡の物語を紹介します。

延岡市は、人口約11万人、五ヶ瀬川、大瀬川、北川、祝子川などの河口部に位置しています。水に恵まれ、水郷延岡と言われる反面、度々、大きな水害にも遭っています。

江戸時代は、7万石でした。最後の藩主は、内藤政拳侯です。内藤家から寄贈された天下一能面を使った薪能が今年も10月10



日、城山で開催されます。観世流家元の片山九朗右衛門氏や狂言師野村萬斎氏が出演します。「城山千人殺しの石垣」を背景に舞台が設営され、天下一薪能が開催されます。天下一の能面が躍動する幽玄の舞をお楽しみください。

延岡市は、旭化成創業（大正11年）の地です。工業都市として、発展してきました

そんな延岡で青春時代を過ごした昭和17年度生まれの同期生たち約80名が「はげらし会」と言う交流会を立ち上げ、折に触れて集い、ふるさとを偲ぶことになりました。「はげらしい」と言うのは、延岡の方言で、悔しい、もどかしい、残念と言う意味があります。県北の延岡は、県南に比べて、遅れていると言われていました。

「はげらし会」のメンバーには、そんな延岡を元気にしたいという思いがあったのだと思います。平成20年（2008年）2月、「はげらし会」会員の高倉さん（故人）は、故郷延岡に恩返しをしたい、河津桜で延岡を元気にしたいと興奮して、松田さん（コノハナロード初代会長）に電話を掛けてきました。「はげらし会」は、早速、寄付を募り100万円を集め、桜の苗を購入し送ってくれました。

第1回の植樹祭には多くの市民、ボランティアが集まり細い苗を植えました。



それから10年、総額500万円ほどの支援をしてくれました。いくつもの奇跡が重なり、延岡ICから東に向かうインター線沿いの五ヶ瀬川堤防に河津桜を植樹することが出来ました。現在は、樹齢20年ほどの河津桜が300本ほど美しく元気に育っています。

コノハナロード延岡市民応援隊の会員の多くは、後期高齢者ですが、毎日、管理作業に汗を流しています。雑草だらけだった堤防が、花のある憩いの空間に生まれ変わりました。



同じアングルで撮影した今年の延岡花物語です。桜と草花が満開で笑顔一杯です。ローマは、一日にしてならず、ここまで来るのに19年を要しました。五ヶ瀬川堤防が市民に愛されるようになることが会員の生きがいとなっています。

本会は色々な事を楽しめる場ですが他のボランティア団体と同様に高齢化や会員の減少に悩んでいます。しかし近年、新会員が少し増えて来ました。会員対策については外部団体・識者からアドバイスをもらいました。それを踏まえて以下の対策を実施しています。

第1は年1回の活動報告会です。第2に宣伝も兼ねてコノハナロードで育てている桜やコットンを延岡の行事に活用しています。天下一薪能や延岡駅改札口に展示しています。これは生花メンバーとの出会いがあり、可能となりました。第3はお試し参加の共同作業日（毎月第1土曜日）や草刈機体験会、トラクター体験会、第4はリーダー会と称して毎月、月末の火曜日に集まって定期的に話し合うことにしました。皆で来月の事業についてワイワイ協議をします。やっぱり文殊の知恵です。良い考えが出ます。マスコミ発信も増えました。その効果か手先の器用な会員が新たに加入しテーブルや巣箱などを作り始め、会員も5人増えました。嬉しかったですね。しかし、高齢者が多いです。何時までも活動が続けられるわけではありません。まず自分の健康を維持しながら新しい仲間を開拓しコノハナロード延岡市民応援隊を続けて行きたいと思います。

最後に活動報告書です。毎年総会資料として作成しています。今年は53頁カラー版になりました。これを発起人であるはげらし会の方々にも毎年送っていますが、とても喜んでいただき葉書やメールで感謝の言葉が届きます。その一文を紹介します。

ゴンちゃん（高倉さん：故人、発案者）の「ふるさとに恩返し」という一途な気持ちが一粒の種ならぬ一枝から始まって、見事に花を咲かせるまでに成長しました。

それにつけても ゴンちゃんがいたらなあ・・・ と思います。どんなに喜んだことでしょう。

こんなことを思ってくれる方々に支えられて活動を続けています。今年で19年目です。